記入例１
（令和５年度審査における承認申請書）

技能研修計画の申請書

申請日		申請番号	

（ア）申請者に関する情報

フリガナ		性別	
氏名		生年月日	

申請者の連絡先

電話番号		医籍番号	
e-mail		医籍登録年度	2009年度

技能の修得・維持を予定している医療機関

都道府県		医療機関名	
所属診療科（自由記載）		小児科	

保有専門医資格　（複数選択可）

基本19領域		
□ 01. 内科専門医（認定内科医）（総合内科専門医）	□ 08. 眼科専門医	□ 15. 臨床検査専門医
■ 02. 小児科専門医	□ 09. 耳鼻咽喉科専門医	□ 16. 救急科専門医
□ 03. 皮膚科専門医	□ 10. 泌尿器科専門医	□ 17. 形成外科領域専門医
□ 04. 精神科専門医	□ 11. 脳神経外科専門医	□ 18. リハビリテーション科専門医
□ 05. 外科専門医	□ 12. 放射線科専門医	□ 19. 総合診療専門医
□ 06. 整形外科専門医	□ 13. 麻酔科専門医	
□ 07. 産婦人科専門医	□ 14. 病理専門医	

その他専門医		
□ 消化器病専門医	□ アレルギー専門医	□ 呼吸器外科専門医
□ 循環器専門医	□ 感染症専門医	□ 心臓血管外科専門医
□ 呼吸器専門医	□ 老年病専門医	□ 小児外科専門医
□ 血液専門医	□ 神経内科専門医	□ 乳腺専門医
□ 内分泌代謝科専門医	□ リウマチ専門医	□ 内分泌外科専門医
□ 糖尿病専門医	□ 消化器内視鏡専門医	□ 放射線診断専門医
□ 腎臓専門医	□ がん薬物療法専門医	□ 放射線治療専門医
□ 肝臓専門医	□ 消化器外科専門医	

■ その他 ①	小児循環器専門医
□ その他 ②	
□ その他 ③	

いずれの専門医資格も保有していない場合、特記すべき事情があれば、下記に記載をしてください。

記入例１
（令和５年度審査における承認申請書）

（イ）技能研修計画

（１） 研修計画期間 （一度に申請できるのは最長3年）

開始	2024年 04月 01日
終了	2027年 03月 31日

研修期間： 3年 0ヶ月

（２） 技能の内容

領域（基本19領域）	小児科
技能名	先天性心疾患の診断、カテーテル治療および周術期の全身管理
C-２水準の対象技能となり得る技能の考え方	○ 医療技術の進歩により新たに登場した、保険未収載の治療・手術技術
	● 良質かつ安全な医療を提供し続けるために、個々の医師が独立して実施可能なレベルまで修得・維持しておく必要があるが、基本領域の専門医取得段階ではそのレベルまで到達することが困難な技術
技能の修得にやむを得ず長時間労働が必要となる根拠（複数選択可）	■ 診療の時間帯を選択できない現場でなければ修得できない
	■ 同一の患者を同一の医師が継続して対応しなければ修得できない
	■ その技能に関する手術・処置等が長時間に及ぶ

（３） 当該技能の修得に関する技能の研修予定症例数

申請するC-２水準の技能の修得のために必要とされる個別の技能／技術等	技能修得のために主体的に診療に携わる研修予定症例数（計画年度別）			所属医療機関の年間見込み症例数
	1年目	2年目	3年目	
小児心臓カテーテル検査（術者/助手）	40件	40件	40件	100件
カテーテル治療（経皮的血管形成術、術者/助手）	20件	20件	20件	50件
カテーテル治療（経皮的心房中隔欠損/卵円孔閉鎖術、助手）	10件	10件	10件	20件
カテーテル治療（経皮的肺動脈弁/大動脈弁形成術、術者/助手）	2件	2件	2件	5件
カテーテル治療（経皮的動脈管閉鎖術、助手）	5件	5件	5件	15件
カテーテル治療（側副血行路コイル/デバイス塞栓術、術者/助手）	20件	20件	20件	30件
経食道心エコー	10件	10件	10件	60件
経胸壁心エコー	600件	600件	600件	2200件
緊急カテーテル治療（経皮的心房中隔裂開術、術者/助手）	2件	2件	2件	2件
集中治療室における小児心疾患患者の管理（術後症例含む）	150件	150件	150件	150件

（４） その他、技能修得のために必要な業務

週1-2回の外来業務およびその準備 月5-6回のオンコール番業務（ICU/NICU/病棟処置対応） 病棟・ICU業務
他科との合同カンファレンスおよびその準備（infant heart team/brain heart team含む） 週1回のチームカンファレンス カテーテルレポート作製
学会への症例登録、学会・研究会発表

（ウ）申請した技能分野の当該医療機関におけるC-２水準の指定について

○ 指定済 ○ 指定申請中 ● 同時申請

（エ）意思確認

■ 当該技能研修計画は、自らの発意に基づき作成しており、作成した技能研修計画書の業務内容は申請技能の向上のために、やむを得ず960時間以上の時間外・休日労働を必要とする。

■ 医療機関内の承認手続きを完了

記入例２
（令和５年度審査における承認申請書）

技能研修計画の申請書

申請日		申請番号	

（ア）申請者に関する情報

フリガナ		性別	
氏名		生年月日	

申請者の連絡先

電話番号		医籍番号	
e-mail		医籍登録年度	2005年度

技能の修得・維持を予定している医療機関

都道府県		医療機関名	
所属診療科（自由記載）		脳神経外科	

保有専門医資格　（複数選択可）

基本19領域		
☐ 01. 内科専門医（認定内科医）（総合内科専門医）	☐ 08. 眼科専門医	☐ 15. 臨床検査専門医
☐ 02. 小児科専門医	☐ 09. 耳鼻咽喉科専門医	☐ 16. 救急科専門医
☐ 03. 皮膚科専門医	☐ 10. 泌尿器科専門医	☐ 17. 形成外科領域専門医
☐ 04. 精神科専門医	■ 11. 脳神経外科専門医	☐ 18. リハビリテーション科専門医
☐ 05. 外科専門医	☐ 12. 放射線科専門医	☐ 19. 総合診療専門医
☐ 06. 整形外科専門医	☐ 13. 麻酔科専門医	
☐ 07. 産婦人科専門医	☐ 14. 病理専門医	

その他専門医		
☐ 消化器病専門医	☐ アレルギー専門医	☐ 呼吸器外科専門医
☐ 循環器専門医	☐ 感染症専門医	☐ 心臓血管外科専門医
☐ 呼吸器専門医	☐ 老年病専門医	☐ 小児外科専門医
☐ 血液専門医	☐ 神経内科専門医	☐ 乳腺専門医
☐ 内分泌代謝科専門医	☐ リウマチ専門医	☐ 内分泌外科専門医
☐ 糖尿病専門医	☐ 消化器内視鏡専門医	☐ 放射線診断専門医
☐ 腎臓専門医	☐ がん薬物療法専門医	☐ 放射線治療専門医
☐ 肝臓専門医	☐ 消化器外科専門医	

■ その他 ①	脳血管内治療専門医
■ その他 ②	がん治療認定医
■ その他 ③	小児脳神経外科認定医

いずれの専門医資格も保有していない場合、特記すべき事情があれば、下記に記載をしてください。

（イ）技能研修計画

（１） 研修計画期間 （一度に申請できるのは最長3年）

開始	2024年 04月 01日
終了	2027年 03月 31日

研修期間： 3年 0ヶ月

（２） 技能の内容

領域（基本19領域）	脳神経外科
技能名	神経膠腫に対する摘出術及び病態生理と神経機能予後管理及び周術期管理
C-２水準の対象技能となり得る技能の考え方	○医療技術の進歩により新たに登場した、保険未収載の治療・手術技術
	●良質かつ安全な医療を提供し続けるために、個々の医師が独立して実施可能なレベルまで修得・維持しておく必要があるが、基本領域の専門医取得段階ではそのレベルまで到達することが困難な技術
技能の修得にやむを得ず長時間労働が必要となる根拠（複数選択可）	■診療の時間帯を選択できない現場でなければ修得できない
	■同一の患者を同一の医師が継続して対応しなければ修得できない
	■その技能に関する手術・処置等が長時間に及ぶ

（３） 当該技能の修得に関する技能の研修予定症例数

申請するC-２水準の技能の修得のために必要とされる個別の技能／技術等	技能修得のために主体的に診療に携わる研修予定症例数（計画年度別）			所属医療機関の年間見込み症例数
	1年目	2年目	3年目	
脳機能と脳解剖を理解した上での脳切除を達成する特殊技能	75件	75件	75件	75件
脳幹部腫瘍による閉塞性水頭症に対する第3脳室底開窓術	2件	2件	2件	2件
緊急手術を要する小児脳腫瘍に対する開頭腫瘍摘出術	5件	5件	5件	5件
脳機能温存を要する覚醒下手術	3件	3件	3件	3件
レクセルフレームを用いた深部脳腫瘍に対する定位脳生検術	8件	8件	8件	12件
脳腫瘍に対する開頭腫瘍摘出術における周術期管理	100件	100件	100件	100件
脳腫瘍に対する開頭腫瘍摘出術に要する術前後及び経過説明	100件	100件	100件	100件
脳腫瘍に対する臨床試験・治験に関する術前後及び経過の患者説明	10件	10件	10件	10件
脳腫瘍治療中例のけいれんなどの急性症候に対する診療	15件	15件	15件	15件
脳腫瘍に対する臨床試験・治験の書類作成	10件	10件	10件	10件
脳腫瘍例に対するデータ整理、セミナー発表	10件	10件	10件	10件
悪性脳腫瘍に対する放射線化学療法	50件	50件	50件	50件
脳腫瘍に対する開頭腫瘍摘出術前後における術前後シミュレーション	100件	100件	100件	100件

（４） その他、技能修得のために必要な業務

神経膠腫は1万に1人の稀少疾患で脳細胞が腫瘍になる疾患であり、その広がりがどうであるか、どの領域は摘出できるのか、といった術前後の画像及び機能及び解剖の手術シミュレーションが必要となる。また、手術後に手術動画の編集、手術所見の記載、の蓄積が術者としての技術向上に必須である。また、術前後の患者説明には特に時間をかける必要があり、互いに手術の目的の意識共有が必須である。外科手術の後は、術後管理は必須であり、また臨床研修医や専攻医に対して、手術方法の教育、手術所見の書き方の教育、手術のポイントの指導が必要となる。週に3回術前術後カンファレンスに参加および準備、週に5日の病棟管理、週に1回の外来診療、神経膠腫手術は特殊手術であるため術者が限られるため夏季休暇を除く毎日のオンコール、月に6－8回の当直業務・学会・研究会発表・学術論文・一般医学雑誌への依頼論文・セミナーの開催が必要である。また、悪性脳腫瘍の場合は臨時手術になるため、手術枠の関係から時間外手術となり夜通しの手術となることも月に1－2回はあり、1つの手術は長時間となる。安全に手術を完遂するための技能の習得が必須で、開閉頭においては専攻医への教育も必要である。特に脳はまだ未知の臓器で、解剖学的個人差が強く1mmに満たない多数の血管走行を意識した手術が必要であり、入念な準備をしてもなお足りないほどの高いレベルでの手術手技が必要であり、その維持に努める。術後合併症の発症は脳機能の障害になるため、患者の状態変化に対して、時間外であっても主体的に周術期管理を行う必要がある。また退院後外来通院が可能となった場合も術後の化学療法の施行、化学療法中の有害事象発生時の対応、急なけいれんなどの神経症候への対応が必要となる。一人の患者を最初から最後まで責任をもって診療することにより、次世代のリーダーとなるための能力を習得する。

（ウ）申請した技能分野の当該医療機関におけるＣ-２水準の指定について

○ 指定済 ○ 指定申請中 ● 同時申請

（エ）意思確認

■ 当該技能研修計画は、自らの発意に基づき作成しており、作成した技能研修計画書の業務内容は申請技能の向上のために、やむを得ず960時間以上の時間外・休日労働を必要とする。

■ 医療機関内の承認手続きを完了

記入例３
（令和５年度審査における承認申請書）

技能研修計画の申請書

申請日		申請番号	

（ア）申請者に関する情報

フリガナ		性別	
氏名		生年月日	

申請者の連絡先

電話番号		医籍番号	
e-mail		医籍登録年度	2017年度

技能の修得・維持を予定している医療機関

都道府県		医療機関名	
所属診療科（自由記載）		脳神経外科	

保有専門医資格　（複数選択可）

基本19領域		
☐ 01. 内科専門医（認定内科医）（総合内科専門医）	☐ 08. 眼科専門医	☐ 15. 臨床検査専門医
☐ 02. 小児科専門医	☐ 09. 耳鼻咽喉科専門医	☐ 16. 救急科専門医
☐ 03. 皮膚科専門医	☐ 10. 泌尿器科専門医	☐ 17. 形成外科領域専門医
☐ 04. 精神科専門医	☐ 11. 脳神経外科専門医	☐ 18. リハビリテーション科専門医
☐ 05. 外科専門医	☐ 12. 放射線科専門医	☐ 19. 総合診療専門医
☐ 06. 整形外科専門医	☐ 13. 麻酔科専門医	
☐ 07. 産婦人科専門医	☐ 14. 病理専門医	

その他専門医		
☐ 消化器病専門医	☐ アレルギー専門医	☐ 呼吸器外科専門医
☐ 循環器専門医	☐ 感染症専門医	☐ 心臓血管外科専門医
☐ 呼吸器専門医	☐ 老年病専門医	☐ 小児外科専門医
☐ 血液専門医	☐ 神経内科専門医	☐ 乳腺専門医
☐ 内分泌代謝科専門医	☐ リウマチ専門医	☐ 内分泌外科専門医
☐ 糖尿病専門医	☐ 消化器内視鏡専門医	☐ 放射線診断専門医
☐ 腎臓専門医	☐ がん薬物療法専門医	☐ 放射線治療専門医
☐ 肝臓専門医	☐ 消化器外科専門医	

☐ その他 ①	
☐ その他 ②	
☐ その他 ③	

いずれの専門医資格も保有していない場合、特記すべき事情があれば、下記に記載をしてください。

今年に専門医試験を受験し、まだその結果が発表されていないため

記入例３
（令和５年度審査における承認申請書）

（イ）技能研修計画

（１） 研修計画期間 （一度に申請できるのは最長3年）

開始	2024年 04月 01日
終了	2027年 03月 31日

研修期間： 3年 0ヶ月

（２） 技能の内容

領域（基本19領域）	脳神経外科
技能名	脳血管障害疾患に関する手術手技とその周術期管理
C－２水準の対象技能となり得る技能の考え方	○医療技術の進歩により新たに登場した、保険未収載の治療・手術技術
	●良質かつ安全な医療を提供し続けるために、個々の医師が独立して実施可能なレベルまで修得・維持しておく必要があるが、基本領域の専門医取得段階ではそのレベルまで到達することが困難な技術
技能の修得にやむを得ず長時間労働が必要となる根拠（複数選択可）	■診療の時間帯を選択できない現場でなければ修得できない
	■同一の患者を同一の医師が継続して対応しなければ修得できない
	■その技能に関する手術・処置等が長時間に及ぶ

（３） 当該技能の修得に関する技能の研修予定症例数

申請するC－２水準の技能の修得のために必要とされる個別の技能／技術等	技能修得のために主体的に診療に携わる研修予定症例数（計画年度別）			所属医療機関の年間見込み症例数
	1年目	2年目	3年目	
動脈瘤破裂によるくも膜下出血、脳出血などの出血性脳卒中に対する開頭手術(術者)	30件	30件	30件	30件
脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血に対する血管内治療(助手)	40件	40件	40件	40件
重症頭部外傷に対する外来での初期対応と緊急開頭減圧手術(術者)	30件	30件	30件	30件
脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻などの頭蓋内シャント疾患に対する血管内手術、開頭手術あるいはその両方を併用した治療と周術期管理	10件	10件	10件	10件
急性期脳梗塞に対する機械的血栓回収の手技(術者)	30件	30件	30件	30件
頭部外傷などの頭蓋内圧上昇の患者において外来での緊急脳室ドレナージ術やICPモニター留置	10件	10件	10件	10件
脳血管障害疾患に対する血管撮影検査の実施とその結果を踏まえた手術戦略の計画	40件	40件	40件	40件
脳血管障害疾患と重傷頭部外傷疾患に対するICU管理	30件	30件	30件	30件
脳内出血に対する内視鏡下血腫除去術(術者)	20件	20件	20件	20件
脳内出血に対する内視鏡下血腫除去術(助手)	20件	20件	20件	20件
未破裂動脈瘤に対するコイル塞栓術などの血管内治療(助手)	15件	15件	15件	15件
脳梗塞後の広範な脳浮腫に対する緊急開頭減圧術(術者)	10件	10件	10件	10件

（４） その他、技能修得のために必要な業務

オンコール対応、当直業務、患者さんやその家族への病状と治療内容の説明、同意書の説明と同意の取得、入院の指示や入院中の検査日程の計画、緊急手術の日程について手術室の看護部・麻酔科との調整、手術動画の編集、手術記録の作成

（ウ）申請した技能分野の当該医療機関におけるC－２水準の指定について

○ 指定済 ○ 指定申請中 ● 同時申請

（エ）意思確認

■ 当該技能研修計画は、自らの発意に基づき作成しており、作成した技能研修計画書の業務内容は申請技能の向上のために、やむを得ず960時間以上の時間外・休日労働を必要とする。

■ 医療機関内の承認手続きを完了

記入例４
（令和５年度審査における承認申請書）

技能研修計画の申請書

申請日	

申請番号	

（ア）申請者に関する情報

フリガナ	
氏名	

性別	
生年月日	

申請者の連絡先

電話番号	
e-mail	

医籍番号	
医籍登録年度	2014年度

技能の修得・維持を予定している医療機関

都道府県		医療機関名	
所属診療科（自由記載）	脳神経外科		

保有専門医資格　（複数選択可）

基本19領域		
□ 01. 内科専門医（認定内科医）（総合内科専門医）	□ 08. 眼科専門医	□ 15. 臨床検査専門医
□ 02. 小児科専門医	□ 09. 耳鼻咽喉科専門医	□ 16. 救急科専門医
□ 03. 皮膚科専門医	□ 10. 泌尿器科専門医	□ 17. 形成外科領域専門医
□ 04. 精神科専門医	■ 11. 脳神経外科専門医	□ 18. リハビリテーション科専門医
□ 05. 外科専門医	□ 12. 放射線科専門医	□ 19. 総合診療専門医
□ 06. 整形外科専門医	□ 13. 麻酔科専門医	
□ 07. 産婦人科専門医	□ 14. 病理専門医	

その他専門医		
□ 消化器病専門医	□ アレルギー専門医	□ 呼吸器外科専門医
□ 循環器専門医	□ 感染症専門医	□ 心臓血管外科専門医
□ 呼吸器専門医	□ 老年病専門医	□ 小児外科専門医
□ 血液専門医	□ 神経内科専門医	□ 乳腺専門医
□ 内分泌代謝科専門医	□ リウマチ専門医	□ 内分泌外科専門医
□ 糖尿病専門医	□ 消化器内視鏡専門医	□ 放射線診断専門医
□ 腎臓専門医	□ がん薬物療法専門医	□ 放射線治療専門医
□ 肝臓専門医	□ 消化器外科専門医	

■ その他 ①	日本脳神経血管内治療学会専門医
■ その他 ②	日本脳卒中学会認定脳卒中専門医
□ その他 ③	

いずれの専門医資格も保有していない場合、特記すべき事情があれば、下記に記載をしてください。

記入例４
（令和５年度審査における承認申請書）

（イ）技能研修計画

（１） 研修計画期間 （一度に申請できるのは最長3年）

開始	2024年 04月 01日
終了	2027年 03月 31日

研修期間： 3年 0ヶ月

（２） 技能の内容

領域（基本19領域）	脳神経外科
技能名	小児神経疾患にかかわる手術加療及びその周術期管理
C－２水準の対象技能となり得る技能の考え方	○ 医療技術の進歩により新たに登場した、保険未収載の治療・手術技術
	● 良質かつ安全な医療を提供し続けるために、個々の医師が独立して実施可能なレベルまで修得・維持しておく必要があるが、基本領域の専門医取得段階ではそのレベルまで到達することが困難な技術
技能の修得にやむを得ず長時間労働が必要となる根拠（複数選択可）	□ 診療の時間帯を選択できない現場でなければ修得できない
	□ 同一の患者を同一の医師が継続して対応しなければ修得できない
	■ その技能に関する手術・処置等が長時間に及ぶ

（３） 当該技能の修得に関する技能の研修予定症例数

申請するC－２水準の技能の修得のために必要とされる個別の技能／技術等	技能修得のために主体的に診療に携わる研修予定症例数（計画年度別）			所属医療機関の年間見込み症例数
	1年目	2年目	3年目	
小児脳腫瘍手術の術者	1件	4件	8件	100件
小児脳腫瘍手術の助手	39件	36件	32件	100件
二分脊椎手術の術者	20件	30件	40件	300件
二分脊椎手術の助手	60件	50件	40件	300件
小児水頭症手術の術者	10件	20件	29件	250件
小児水頭症手術の助手	20件	10件	1件	250件
頭蓋縫合早期癒合症手術の術者	5件	10件	15件	30件
頭蓋縫合早期癒合症手術の助手	15件	10件	5件	30件
小児機能外科手術の術者	1件	2件	4件	60件
小児機能外科手術の助手	4件	3件	1件	60件
術前・術後の入院鎮静検査（MRI、CT等）	500件	500件	500件	500件
小児神経外科疾患の初診外来	200件	200件	200件	200件

（４） その他、技能修得のために必要な業務

月7-10回程度のオンコール業務（外来通院中の患者の緊急受診に関する救急外来対応、入院患者の病棟急変対応）、
インフォームドコンセント（術前説明等）、 多診療科および多職種カンファレンス、 サマリー・手術記録作成

（ウ）申請した技能分野の当該医療機関におけるC－２水準の指定について

○ 指定済 ○ 指定申請中 ● 同時申請

（エ）意思確認

■ 当該技能研修計画は、自らの発意に基づき作成しており、作成した技能研修計画書の業務内容は申請技能の向上のために、やむを得ず960時間以上の時間外・休日労働を必要とする。

■ 医療機関内の承認手続きを完了

記入例5

技能研修計画の申請書

（令和５年度審査における承認申請書）

申請日	

申請番号	

（ア）申請者に関する情報

フリガナ	
氏名	

性別	
生年月日	

申請者の連絡先

電話番号	
e-mail	

医籍番号	
医籍登録年度	2014年度

技能の修得・維持を予定している医療機関

都道府県		医療機関名	
所属診療科（自由記載）	心臓血管外科		

保有専門医資格　（複数選択可）

基本19領域		
☐ 01. 内科専門医（認定内科医）（総合内科専門医）	☐ 08. 眼科専門医	☐ 15. 臨床検査専門医
☐ 02. 小児科専門医	☐ 09. 耳鼻咽喉科専門医	☐ 16. 救急科専門医
☐ 03. 皮膚科専門医	☐ 10. 泌尿器科専門医	☐ 17. 形成外科領域専門医
☐ 04. 精神科専門医	☐ 11. 脳神経外科専門医	☐ 18. リハビリテーション科専門医
■ 05. 外科専門医	☐ 12. 放射線科専門医	☐ 19. 総合診療専門医
☐ 06. 整形外科専門医	☐ 13. 麻酔科専門医	
☐ 07. 産婦人科専門医	☐ 14. 病理専門医	

その他専門医		
☐ 消化器病専門医	☐ アレルギー専門医	☐ 呼吸器外科専門医
☐ 循環器専門医	☐ 感染症専門医	☐ 心臓血管外科専門医
☐ 呼吸器専門医	☐ 老年病専門医	☐ 小児外科専門医
☐ 血液専門医	☐ 神経内科専門医	☐ 乳腺専門医
☐ 内分泌代謝科専門医	☐ リウマチ専門医	☐ 内分泌外科専門医
☐ 糖尿病専門医	☐ 消化器内視鏡専門医	☐ 放射線診断専門医
☐ 腎臓専門医	☐ がん薬物療法専門医	☐ 放射線治療専門医
☐ 肝臓専門医	☐ 消化器外科専門医	

☐ その他 ①	
☐ その他 ②	
☐ その他 ③	

いずれの専門医資格も保有していない場合、特記すべき事情があれば、下記に記載をしてください。

（イ）技能研修計画

（１） 研修計画期間 （一度に申請できるのは最長3年）

開始	2024年 04月 01日
終了	2027年 03月 31日

研修期間： 3年 0ヶ月

（２） 技能の内容

領域（基本19領域）	外科
技能名	心臓血管外科領域に関する手術及び周術期管理
C－２水準の対象技能となり得る技能の考え方	○ 医療技術の進歩により新たに登場した、保険未収載の治療・手術技術
	● 良質かつ安全な医療を提供し続けるために、個々の医師が独立して実施可能なレベルまで修得・維持しておく必要があるが、基本領域の専門医取得段階ではそのレベルまで到達することが困難な技術
技能の修得にやむを得ず長時間労働が必要となる根拠（複数選択可）	■ 診療の時間帯を選択できない現場でなければ修得できない
	■ 同一の患者を同一の医師が継続して対応しなければ修得できない
	■ その技能に関する手術・処置等が長時間に及ぶ

（３） 当該技能の修得に関する技能の研修予定症例数

申請するC－２水準の技能の修得のために必要とされる個別の技能／技術等	技能修得のために主体的に診療に携わる研修予定症例数（計画年度別）			所属医療機関の年間見込み症例数
	1年目	2年目	3年目	
心室中隔欠損閉鎖術（術者）	3件	5件	7件	15件
心室中隔欠損閉鎖術（助手）	10件	7件	5件	20件
心房中隔欠損閉鎖術（術者）	2件	5件	7件	10件
心房中隔欠損閉鎖術（助手）	5件	3件	2件	10件
肺動脈絞扼術（術者）	1件	3件	5件	20件
肺動脈絞扼術（助手）	7件	5件	3件	20件
体肺動脈短絡術（術者）	1件	2件	3件	15件
体肺動脈短絡術（助手）	10件	7件	5件	20件
ファロー四徴症根治術（助手）	7件	7件	7件	15件
両大血管右室起始症閉鎖術（助手）	7件	7件	7件	15件
完全大血管転位症（助手）	5件	5件	5件	10件
総肺静脈還流異常症（助手）	5件	5件	5件	10件
Norwood手術（助手）	5件	5件	5件	10件
グレン手術（助手）	10件	10件	10件	30件
フォンタン手術（助手）	10件	10件	10件	20件
房室弁形成術（助手）	10件	10件	10件	30件
房室中隔欠損根治術（助手）	10件	10件	10件	20件

（４） その他、技能修得のために必要な業務

術後の集中治療室での管理、一般病棟管理、外来管理

（ウ）申請した技能分野の当該医療機関におけるC－２水準の指定について

○ 指定済 ○ 指定申請中 ● 同時申請

（エ）意思確認

■ 当該技能研修計画は、自らの発意に基づき作成しており、作成した技能研修計画書の業務内容は申請技能の向上のために、やむを得ず960時間以上の時間外・休日労働を必要とする。

■ 医療機関内の承認手続きを完了

記入例６
（令和５年度審査における承認申請書）

技能研修計画の申請書

申請日	年　　月　　日

申請番号	

※申請者は記載不要

（ア）申請者に関する情報

フリガナ	
氏名	

性別	
生年月日	

申請者の連絡先

電話番号	
e-mail	

医籍番号	
医籍登録年度	2016年度

技能の修得・維持を予定している医療機関

都道府県		医療機関名	
所属診療科（自由記載）	新生児科		

保有専門医資格 （複数選択可）

基本19領域

- ☐ 01. 内科専門医（認定内科医）（総合内科専門医）
- ☐ 02. 小児科専門医
- ☐ 03. 皮膚科専門医
- ☐ 04. 精神科専門医
- ☐ 05. 外科専門医
- ☐ 06. 整形外科専門医
- ☐ 07. 産婦人科専門医
- ☐ 08. 眼科専門医
- ☐ 09. 耳鼻咽喉科専門医
- ☐ 10. 泌尿器科専門医
- ☐ 11. 脳神経外科専門医
- ☐ 12. 放射線科専門医
- ☐ 13. 麻酔科専門医
- ☐ 14. 病理専門医
- ☐ 15. 臨床検査専門医
- ☐ 16. 救急科専門医
- ☐ 17. 形成外科領域専門医
- ☐ 18. リハビリテーション科専門医
- ☐ 19. 総合診療専門医

その他専門医

- ☐ 消化器病専門医
- ☐ 循環器専門医
- ☐ 呼吸器専門医
- ☐ 血液専門医
- ☐ 内分泌代謝科専門医
- ☐ 糖尿病専門医
- ☐ 腎臓専門医
- ☐ 肝臓専門医
- ☐ アレルギー専門医
- ☐ 感染症専門医
- ☐ 老年病専門医
- ☐ 神経内科専門医
- ☐ リウマチ専門医
- ☐ 消化器内視鏡専門医
- ☐ がん薬物療法専門医
- ☐ 消化器外科専門医
- ☐ 呼吸器外科専門医
- ☐ 心臓血管外科専門医
- ☐ 小児外科専門医
- ☐ 乳腺専門医
- ☐ 内分泌外科専門医
- ☐ 放射線診断専門医
- ☐ 放射線治療専門医

☐ その他①	（　　）
☐ その他②	（　　）
☐ その他③	（　　）

※その他の記入欄が足りない場合は、申請に関わる専門医資格を優先して記載してください。

いずれの専門医資格も保有していない場合、特記すべき事情があれば、下記に記載をしてください。

小児科専門医取得予定

（イ）技能研修計画　※必ず申請医師本人が記載してください

（1）研修計画期間（一度に申請できるのは最長3年）

開始	2024年4月
終了	2027年3月

（2）技能の内容

領域（基本19領域）	小児科
技能名 ※臓器または病態と医療行為を組み合わせて技能名を作成（例参照）	ハイリスク新生児の蘇生・全身管理
C-2水準の対象技能となり得る技能の考え方（いずれかを選択）	○ 医療技術の進歩により新たに登場した、保険未収載の治療・手術技術
	◉ 良質かつ安全な医療を提供し続けるために、個々の医師が独立して実施可能なレベルまで修得・維持しておく必要があるが、基本領域の専門医取得段階ではそのレベルまで到達することが困難な技術
技能の修得にやむを得ず長時間労働が必要となる根拠（複数選択可）	☑ 診療の時間帯を選択できない現場でなければ修得できない
	☑ 同一の患者を同一の医師が継続して対応しなければ修得できない
	☑ その技能に関する手術・処置等が長時間に及ぶ

（3）当該技能の修得に関する技能の研修予定症例数

申請するC-2水準の技能の修得のために必要とされる個別の技能／技術等	技能修得のために主体的に診療に携わる研修予定症例数（計画年度別）			所属医療機関の年間見込み症例数
	1年目	2年目	3年目	
低出生体重児の蘇生、全身管理	20 件	20 件	20 件	200 件
呼吸障害を有する新生児の蘇生・呼吸管理	20 件	20 件	20 件	200 件
先天性疾患、染色体異常児等の蘇生・全身管理	5 件	5 件	5 件	50 件
重症新生児仮死の蘇生、治療	2 件	2 件	2 件	10 件
多胎児の蘇生、全身管理	10 件	10 件	10 件	100 件

（4）その他、技能修得のために必要な業務

週１回のフォローアップ外来 月6回の当直(当直明けに関しては午前中に帰宅) 症例検討カンファレンスの開催及びその準備 学会発表、学術論文の作成(一部自己研鑽を含む)
ハイリスクの新生児の出生時の蘇生、家族説明を経験する必要があるが、必ずしも勤務時間内に出生、入院するとは限らない。また、受け持ち患者の急変や、終末期の対応等のため、時間外の勤務となることがしばしばある。

（ウ）申請した技能分野の当該医療機関におけるC-2水準の指定について

○ 指定済　○ 指定申請中　◉ 同時申請

（エ）意思確認

☑ 当該技能研修計画は、自らの発意に基づき作成しており、作成した技能研修計画書の業務内容は申請技能の向上のために、やむを得ず960時間以上の時間外・休日労働を必要とする。

（医療機関担当者記入欄）　☑ 医療機関内の承認手続きを完了

記入例７
（令和５年度審査における承認申請書）

技能研修計画の申請書

申請日	年　　月　　日

申請番号	

※申請者は記載不要

（ア）申請者に関する情報

フリガナ	
氏名	

性別	
生年月日	

申請者の連絡先

電話番号	
e-mail	

医籍番号	
医籍登録年度	2009年度

技能の修得・維持を予定している医療機関

都道府県		医療機関名	
所属診療科（自由記載）	外科		

保有専門医資格 （複数選択可）

基本19領域

- ☐ 01. 内科専門医（認定内科医）（総合内科専門医）
- ☐ 02. 小児科専門医
- ☐ 03. 皮膚科専門医
- ☐ 04. 精神科専門医
- ☑ 05. 外科専門医
- ☐ 06. 整形外科専門医
- ☐ 07. 産婦人科専門医
- ☐ 08. 眼科専門医
- ☐ 09. 耳鼻咽喉科専門医
- ☐ 10. 泌尿器科専門医
- ☐ 11. 脳神経外科専門医
- ☐ 12. 放射線科専門医
- ☐ 13. 麻酔科専門医
- ☐ 14. 病理専門医
- ☐ 15. 臨床検査専門医
- ☐ 16. 救急科専門医
- ☐ 17. 形成外科領域専門医
- ☐ 18. リハビリテーション科専門医
- ☐ 19. 総合診療専門医

その他専門医

- ☐ 消化器病専門医
- ☐ 循環器専門医
- ☐ 呼吸器専門医
- ☐ 血液専門医
- ☐ 内分泌代謝科専門医
- ☐ 糖尿病専門医
- ☐ 腎臓専門医
- ☐ 肝臓専門医
- ☐ アレルギー専門医
- ☐ 感染症専門医
- ☐ 老年病専門医
- ☐ 神経内科専門医
- ☐ リウマチ専門医
- ☐ 消化器内視鏡専門医
- ☐ がん薬物療法専門医
- ☑ 消化器外科専門医
- ☐ 呼吸器外科専門医
- ☐ 心臓血管外科専門医
- ☐ 小児外科専門医
- ☐ 乳腺専門医
- ☐ 内分泌外科専門医
- ☐ 放射線診断専門医
- ☐ 放射線治療専門医

☐ その他①	（　　）
☐ その他②	（　　）
☐ その他③	（　　）

※その他の記入欄が足りない場合は、申請に関わる専門医資格を優先して記載してください。

いずれの専門医資格も保有していない場合、特記すべき事情があれば、下記に記載をしてください。

（イ）技能研修計画　※必ず申請医師本人が記載してください

（1）研修計画期間（一度に申請できるのは最長3年）

開始	2024年4月
終了	2027年3月

（2）技能の内容

領域（基本19領域）	外科
技能名 ※臓器または病態と医療行為を組み合わせて技能名を作成（例参照）	肝胆膵に関する手術とその周術期管理
C-2水準の対象技能となり得る技能の考え方（いずれかを選択）	○ 医療技術の進歩により新たに登場した、保険未収載の治療・手術技術
	◉ 良質かつ安全な医療を提供し続けるために、個々の医師が独立して実施可能なレベルまで修得・維持しておく必要があるが、基本領域の専門医取得段階ではそのレベルまで到達することが困難な技術
技能の修得にやむを得ず長時間労働が必要となる根拠（複数選択可）	☐ 診療の時間帯を選択できない現場でなければ修得できない
	☑ 同一の患者を同一の医師が継続して対応しなければ修得できない
	☑ その技能に関する手術・処置等が長時間に及ぶ

（3）当該技能の修得に関する技能の研修予定症例数

申請するC-2水準の技能の修得のために必要とされる個別の技能／技術等	技能修得のために主体的に診療に携わる研修予定症例数（計画年度別）			所属医療機関の年間見込み症例数
	1年目	2年目	3年目	
肝胆膵に関する手術とその周術期管理（高難度肝切除）	40 件	40 件	40 件	60 件
肝胆膵に関する手術とその周術期管理（高難度膵切除）	35 件	35 件	35 件	45 件
肝胆膵に関する手術とその周術期管理（肝胆膵鏡視下手術）	20 件	20 件	20 件	50 件

（4）その他、技能修得のために必要な業務

肝切除や膵切除など、長時間の手術が必要となる領域において安全に手術を完遂するための技能の習得のため、開腹から閉腹までのすべての行程を主体的に行うことが必要となる。術前の準備として①手術適応、手術方針に関するカンファレンスに積極的に参加し議論を重ねる、②安全に手術を完遂するために、解剖学的変異を含めた血管走行を術前画像検査で把握し、スケッチにより視覚化、チームで共有する。肝胆膵領域の手術はvariationに富んでいるため、詳細な手術記録の記載が必要となる。術後に術中所見をスケッチを用いて記録し、チーム内でフィードバックし、高いレベルでの手術手技の維持に努める。術後合併症の発症は致命的になりうるため急変時を含めた患者の状態変化に対して、時間外であっても主体的に周術期管理を行う。また退院後外来通院が可能となった場合も術後の化学療法の施行、化学療法中の有害事象発生時の対応などに積極的に介入する。一人の患者を最初から最後まで責任をもって診療することにより、次世代のリーダーとなるための能力を習得する。

（ウ）申請した技能分野の当該医療機関におけるC-2水準の指定について

○ 指定済　○ 指定申請中　◉ 同時申請

（エ）意思確認

☑ 当該技能研修計画は、自らの発意に基づき作成しており、作成した技能研修計画書の業務内容は申請技能の向上のために、やむを得ず960時間以上の時間外・休日労働を必要とする。

（医療機関担当者記入欄）　☑ 医療機関内の承認手続きを完了

記入例８
（令和５年度審査における承認申請書）

技能研修計画の申請書

申請日	年　　月　　日

申請番号	

※申請者は記載不要

（ア）申請者に関する情報

フリガナ	
氏名	

性別	
生年月日	

申請者の連絡先

電話番号	
e-mail	

医籍番号	
医籍登録年度	2015年度

技能の修得・維持を予定している医療機関

都道府県		医療機関名	
所属診療科（自由記載）	心臓血管外科		

保有専門医資格 （複数選択可）

基本19領域

- ☐ 01. 内科専門医（認定内科医）（総合内科専門医）
- ☐ 02. 小児科専門医
- ☐ 03. 皮膚科専門医
- ☐ 04. 精神科専門医
- ☑ 05. 外科専門医
- ☐ 06. 整形外科専門医
- ☐ 07. 産婦人科専門医
- ☐ 08. 眼科専門医
- ☐ 09. 耳鼻咽喉科専門医
- ☐ 10. 泌尿器科専門医
- ☐ 11. 脳神経外科専門医
- ☐ 12. 放射線科専門医
- ☐ 13. 麻酔科専門医
- ☐ 14. 病理専門医
- ☐ 15. 臨床検査専門医
- ☐ 16. 救急科専門医
- ☐ 17. 形成外科領域専門医
- ☐ 18. リハビリテーション科専門医
- ☐ 19. 総合診療専門医

その他専門医

- ☐ 消化器病専門医
- ☐ 循環器専門医
- ☐ 呼吸器専門医
- ☐ 血液専門医
- ☐ 内分泌代謝科専門医
- ☐ 糖尿病専門医
- ☐ 腎臓専門医
- ☐ 肝臓専門医
- ☐ アレルギー専門医
- ☐ 感染症専門医
- ☐ 老年病専門医
- ☐ 神経内科専門医
- ☐ リウマチ専門医
- ☐ 消化器内視鏡専門医
- ☐ がん薬物療法専門医
- ☐ 消化器外科専門医
- ☐ 呼吸器外科専門医
- ☑ 心臓血管外科専門医
- ☐ 小児外科専門医
- ☐ 乳腺専門医
- ☐ 内分泌外科専門医
- ☐ 放射線診断専門医
- ☐ 放射線治療専門医

☐ その他①	（　　）
☐ その他②	（　　）
☐ その他③	（　　）

※その他の記入欄が足りない場合は、申請に関わる専門医資格を優先して記載してください。

いずれの専門医資格も保有していない場合、特記すべき事情があれば、下記に記載をしてください。

（イ）技能研修計画　※必ず申請医師本人が記載してください

（1）研修計画期間（一度に申請できるのは最長3年）

開始	2024年4月
終了	2027年3月

（2）技能の内容

領域（基本19領域）	外科
技能名 ※臓器または病態と医療行為を組み合わせて技能名を作成（例参照）	先天性心疾患に関する手術及び周術期管理
C-2水準の対象技能となり得る技能の考え方（いずれかを選択）	○ 医療技術の進歩により新たに登場した、保険未収載の治療・手術技術
	◉ 良質かつ安全な医療を提供し続けるために、個々の医師が独立して実施可能なレベルまで修得・維持しておく必要があるが、基本領域の専門医取得段階ではそのレベルまで到達することが困難な技術
技能の修得にやむを得ず長時間労働が必要となる根拠（複数選択可）	☐ 診療の時間帯を選択できない現場でなければ修得できない
	☐ 同一の患者を同一の医師が継続して対応しなければ修得できない
	☑ その技能に関する手術・処置等が長時間に及ぶ

（3）当該技能の修得に関する技能の研修予定症例数

申請するC-2水準の技能の修得のために必要とされる個別の技能／技術等	技能修得のために主体的に診療に携わる研修予定症例数（計画年度別）			所属医療機関の年間見込み症例数
	1年目	2年目	3年目	
基本手術（ASD,VSD）の術者	5 件	10 件	10 件	60 件
中難度根治手術（TOF,Rastelliなど）の第一助手	10 件	20 件	20 件	80 件
中難度姑息手術(BDG,SPshunt,bil.PABなど）の第一助手	5 件	10 件	20 件	60 件
中難度根治手術の術者	2 件	5 件	10 件	80 件
中難度姑息手術の術者	2 件	5 件	10 件	60 件
複雑心奇形の高難度手術の第一助手	5 件	15 件	30 件	200 件
術後のPICU管理	60 件	60 件	60 件	360 件

（4）その他、技能修得のために必要な業務

カンファレンス参加、抄読会での発表、患者病状説明、病棟管理、オンコール、宿日直、学会での発表、論文作成

（ウ）申請した技能分野の当該医療機関におけるC-2水準の指定について

○ 指定済　○ 指定申請中　◉ 同時申請

（エ）意思確認

☑ 当該技能研修計画は、自らの発意に基づき作成しており、作成した技能研修計画書の業務内容は申請技能の向上のために、やむを得ず960時間以上の時間外・休日労働を必要とする。

（医療機関担当者記入欄）　☑ 医療機関内の承認手続きを完了

記入例９
（令和４年度審査における承認申請書）

技能研修計画の申請書

申請日	年　　月　　日

申請番号	

※申請者は記載不要

（ア）申請者に関する情報

フリガナ	
氏名	

性別	
生年月日	

申請者の連絡先

電話番号	
e-mail	

医籍番号	
医籍登録年度	2016年度

技能の修得・維持を予定している医療機関

都道府県		医療機関名	
所属診療科（自由記載）	産婦人科		

保有専門医資格 （複数選択可）

基本19領域

- ☐ 01. 内科専門医（認定内科医）（総合内科専門医）
- ☐ 02. 小児科専門医
- ☐ 03. 皮膚科専門医
- ☐ 04. 精神科専門医
- ☐ 05. 外科専門医
- ☐ 06. 整形外科専門医
- ☑ 07. 産婦人科専門医
- ☐ 08. 眼科専門医
- ☐ 09. 耳鼻咽喉科専門医
- ☐ 10. 泌尿器科専門医
- ☐ 11. 脳神経外科専門医
- ☐ 12. 放射線科専門医
- ☐ 13. 麻酔科専門医
- ☐ 14. 病理専門医
- ☐ 15. 臨床検査専門医
- ☐ 16. 救急科専門医
- ☐ 17. 形成外科領域専門医
- ☐ 18. リハビリテーション科専門医
- ☐ 19. 総合診療専門医

その他専門医

- ☐ 消化器病専門医
- ☐ 循環器専門医
- ☐ 呼吸器専門医
- ☐ 血液専門医
- ☐ 内分泌代謝科専門医
- ☐ 糖尿病専門医
- ☐ 腎臓専門医
- ☐ 肝臓専門医
- ☐ アレルギー専門医
- ☐ 感染症専門医
- ☐ 老年病専門医
- ☐ 神経内科専門医
- ☐ リウマチ専門医
- ☐ 消化器内視鏡専門医
- ☐ がん薬物療法専門医
- ☐ 消化器外科専門医
- ☐ 呼吸器外科専門医
- ☐ 心臓血管外科専門医
- ☐ 小児外科専門医
- ☐ 乳腺専門医
- ☐ 内分泌外科専門医
- ☐ 放射線診断専門医
- ☐ 放射線治療専門医

☐ その他①	（　　）
☐ その他②	（　　）
☐ その他③	（　　）

※その他の記入欄が足りない場合は、申請に関わる専門医資格を優先して記載してください。

いずれの専門医資格も保有していない場合、特記すべき事情があれば、下記に記載をしてください。

（イ）技能研修計画　※必ず申請医師本人が記載してください

（1）研修計画期間（一度に申請できるのは最長3年）

開始	2024年4月
終了	2027年3月

（2）技能の内容

領域（基本19領域）	産婦人科
技能名 ※臓器または病態と医療行為を組み合わせて技能名を作成（例参照）	異常妊娠に関するその周産期管理
C-2水準の対象技能となり得る技能の考え方（いずれかを選択）	○ 医療技術の進歩により新たに登場した、保険未収載の治療・手術技術
	◉ 良質かつ安全な医療を提供し続けるために、個々の医師が独立して実施可能なレベルまで修得・維持しておく必要があるが、基本領域の専門医取得段階ではそのレベルまで到達することが困難な技術
技能の修得にやむを得ず長時間労働が必要となる根拠（複数選択可）	☑ 診療の時間帯を選択できない現場でなければ修得できない
	☑ 同一の患者を同一の医師が継続して対応しなければ修得できない
	☐ その技能に関する手術・処置等が長時間に及ぶ

（3）当該技能の修得に関する技能の研修予定症例数

申請するC-2水準の技能の修得のために必要とされる個別の技能／技術等	技能修得のために主体的に診療に携わる研修予定症例数（計画年度別）			所属医療機関の年間見込み症例数
	1年目	2年目	3年目	
妊娠28週未満の超早産管理	9 件	9 件	9 件	55 件
胎盤遺残の管理	2 件	2 件	2 件	16 件
妊娠高血圧症候群の管理	22 件	22 件	20 件	120 件
産後異常出血の管理	15 件	15 件	15 件	120 件
双胎妊娠の管理	8 件	8 件	8 件	54 件
糖尿病合併妊娠・妊娠糖尿病	20 件	20 件	20 件	150 件
前置胎盤の帝王切開	2 件	2 件	2 件	20 件
常位胎盤早期剥離症例の管理	1 件	1 件	1 件	10 件
胎児疾患の診断と説明	5 件	5 件	5 件	60 件
パルスドップラー法を用いた胎児血流測定	100 件	100 件	100 件	2200 件

（4）その他、技能修得のために必要な業務

（ウ）申請した技能分野の当該医療機関におけるC-2水準の指定について

○ 指定済　○ 指定申請中　◉ 同時申請

（エ）意思確認

☑ 当該技能研修計画は、自らの発意に基づき作成しており、作成した技能研修計画書の業務内容は申請技能の向上のために、やむを得ず960時間以上の時間外・休日労働を必要とする。

（医療機関担当者記入欄）　☑ 医療機関内の承認手続きを完了

記入例10
（令和４年度審査における承認申請書）

技能研修計画の申請書

申請日	年　月　日

申請番号	

※申請者は記載不要

（ア）申請者に関する情報

フリガナ	
氏名	

性別	
生年月日	

申請者の連絡先

電話番号	
e-mail	

医籍番号	
医籍登録年度	2014年度

技能の修得・維持を予定している医療機関

都道府県		医療機関名	
所属診療科（自由記載）	食道胃腸外科		

保有専門医資格 （複数選択可）

基本19領域

- ☐ 01. 内科専門医（認定内科医）（総合内科専門医）
- ☐ 02. 小児科専門医
- ☐ 03. 皮膚科専門医
- ☐ 04. 精神科専門医
- ☑ 05. 外科専門医
- ☐ 06. 整形外科専門医
- ☐ 07. 産婦人科専門医
- ☐ 08. 眼科専門医
- ☐ 09. 耳鼻咽喉科専門医
- ☐ 10. 泌尿器科専門医
- ☐ 11. 脳神経外科専門医
- ☐ 12. 放射線科専門医
- ☐ 13. 麻酔科専門医
- ☐ 14. 病理専門医
- ☐ 15. 臨床検査専門医
- ☐ 16. 救急科専門医
- ☐ 17. 形成外科領域専門医
- ☐ 18. リハビリテーション科専門医
- ☐ 19. 総合診療専門医

その他専門医

- ☐ 消化器病専門医
- ☐ 循環器専門医
- ☐ 呼吸器専門医
- ☐ 血液専門医
- ☐ 内分泌代謝科専門医
- ☐ 糖尿病専門医
- ☐ 腎臓専門医
- ☐ 肝臓専門医
- ☐ アレルギー専門医
- ☐ 感染症専門医
- ☐ 老年病専門医
- ☐ 神経内科専門医
- ☐ リウマチ専門医
- ☐ 消化器内視鏡専門医
- ☐ がん薬物療法専門医
- ☑ 消化器外科専門医
- ☐ 呼吸器外科専門医
- ☐ 心臓血管外科専門医
- ☐ 小児外科専門医
- ☐ 乳腺専門医
- ☐ 内分泌外科専門医
- ☐ 放射線診断専門医
- ☐ 放射線治療専門医

☐ その他①	（　　）
☐ その他②	（　　）
☐ その他③	（　　）

※その他の記入欄が足りない場合は、申請に関わる専門医資格を優先して記載してください。

いずれの専門医資格も保有していない場合、特記すべき事情があれば、下記に記載をしてください。

例：ライフイベントや留学、天災等により、専門医資格を更新できていないため。

（イ）技能研修計画　※必ず申請医師本人が記載してください

（1）研修計画期間（一度に申請できるのは最長3年）

開始	2024年4月
終了	2027年3月

（2）技能の内容

領域（基本19領域）	外科
技能名 ※臓器または病態と医療行為を組み合わせて技能名を作成（例参照）	食道癌に関する手術およびその周術期管理
C-2水準の対象技能となり得る技能の考え方（いずれかを選択）	○ 医療技術の進歩により新たに登場した、保険未収載の治療・手術技術
	◉ 良質かつ安全な医療を提供し続けるために、個々の医師が独立して実施可能なレベルまで修得・維持しておく必要があるが、基本領域の専門医取得段階ではそのレベルまで到達することが困難な技術
技能の修得にやむを得ず長時間労働が必要となる根拠（複数選択可）	☐ 診療の時間帯を選択できない現場でなければ修得できない
	☑ 同一の患者を同一の医師が継続して対応しなければ修得できない
	☑ その技能に関する手術・処置等が長時間に及ぶ

（3）当該技能の修得に関する技能の研修予定症例数

申請するC-2水準の技能の修得のために必要とされる個別の技能／技術等	技能修得のために主体的に診療に携わる研修予定症例数（計画年度別）			所属医療機関の年間見込み症例数
	1年目	2年目	3年目	
胸腔鏡下食道切除術（術者）	5 件	5 件	10 件	20 件
胸腔鏡下食道切除術（助手）	15 件	15 件	10 件	20 件
ロボット支援下食道切除術（術者）	5 件	5 件	10 件	20 件
ロボット支援下食道切除術（助手）	15 件	15 件	10 件	20 件
食道再建またはバイパス術（胃、空腸による）	10 件	10 件	10 件	10 件
サルベージ手術	5 件	5 件	5 件	5 件
術後のICU管理	40 件	40 件	40 件	40 件
化学療法、放射線療法	35 件	35 件	35 件	35 件

（4）その他、技能修得のために必要な業務

手術レコード作成、ビデオ編集、患者病状説明、食道外科専門医取得、臨床研修医やコメディカルに対するレクチャー、カンファレンス参加、および準備、病棟管理、外来診療、オンコール、宿日直

（ウ）申請した技能分野の当該医療機関におけるC-2水準の指定について

○ 指定済　○ 指定申請中　◉ 同時申請

（エ）意思確認

☑ 当該技能研修計画は、自らの発意に基づき作成しており、作成した技能研修計画書の業務内容は申請技能の向上のために、やむを得ず960時間以上の時間外・休日労働を必要とする。

（医療機関担当者記入欄）　☑ 医療機関内の承認手続きを完了

記入例11

技能研修計画の申請書

申請日	年　月　日

申請番号	

（ア）申請者に関する情報

フリガナ	
氏名	

性別	
生年月日	

申請者の連絡先

電話番号	
e-mail	

医籍番号	
医籍登録年度	2015

技能の修得・維持を予定している医療機関

都道府県		医療機関名	
所属診療科（自由記載）	整形外科		

保有専門医資格 （複数選択可）

基本19領域

- ☐ 01. 内科専門医（認定内科医）（総合内科専門医）
- ☐ 02. 小児科専門医
- ☐ 03. 皮膚科専門医
- ☐ 04. 精神科専門医
- ☐ 05. 外科専門医
- ☑ 06. 整形外科専門医
- ☐ 07. 産婦人科専門医
- ☐ 08. 眼科専門医
- ☐ 09. 耳鼻咽喉科専門医
- ☐ 10. 泌尿器科専門医
- ☐ 11. 脳神経外科専門医
- ☐ 12. 放射線科専門医
- ☐ 13. 麻酔科専門医
- ☐ 14. 病理専門医
- ☐ 15. 臨床検査専門医
- ☐ 16. 救急科専門医
- ☐ 17. 形成外科領域専門医
- ☐ 18. リハビリテーション科専門医
- ☐ 19. 総合診療専門医

その他専門医

- ☐ 消化器病専門医
- ☐ 循環器専門医
- ☐ 呼吸器専門医
- ☐ 血液専門医
- ☐ 内分泌代謝科専門医
- ☐ 糖尿病専門医
- ☐ 腎臓専門医
- ☐ 肝臓専門医
- ☐ アレルギー専門医
- ☐ 感染症専門医
- ☐ 老年病専門医
- ☐ 神経内科専門医
- ☐ リウマチ専門医
- ☐ 消化器内視鏡専門医
- ☐ がん薬物療法専門医
- ☐ 消化器外科専門医
- ☐ 呼吸器外科専門医
- ☐ 心臓血管外科専門医
- ☐ 小児外科専門医
- ☐ 乳腺専門医
- ☐ 内分泌外科専門医
- ☐ 放射線診断専門医
- ☐ 放射線治療専門医

☐ その他①	（　　）
☐ その他②	（　　）
☐ その他③	（　　）

※その他の記入欄が足りない場合は、申請に関わる専門医資格を優先して記載してください。

いずれの専門医資格も保有していない場合、特記すべき事情があれば、下記に記載をしてください。

例：ライフイベントや留学、天災等により、専門医資格を更新できていないため。

記入例11

（イ）技能研修計画　※必ず申請医師本人が記載してください

（1）研修計画期間（一度に申請できるのは最長3年）

開始	2024年4月
終了	2027年3月

（2）技能の内容

領域（基本19領域）	整形外科
技能名 ※臓器または病態と医療行為を組み合わせて技能名を作成（例参照）	例：肝臓に関する移植手術およびその周術期管理 脊椎に関する脊椎外科手術及びその周術期管理
C-2水準の対象技能となり得る技能の考え方（いずれかを選択）	○ 医療技術の進歩により新たに登場した、保険未収載の治療・手術技術
	◉ 良質かつ安全な医療を提供し続けるために、個々の医師が独立して実施可能なレベルまで修得・維持しておく必要があるが、基本領域の専門医取得段階ではそのレベルまで到達することが困難な技術
技能の修得にやむを得ず長時間労働が必要となる根拠（複数選択可）	☑ 診療の時間帯を選択できない現場でなければ修得できない
	☐ 同一の患者を同一の医師が継続して対応しなければ修得できない
	☑ その技能に関する手術・処置等が長時間に及ぶ

（3）当該技能の修得に関する技能の研修予定症例数

申請するC-2水準の技能の修得のために必要とされる個別の技能／技術等	技能修得のために主体的に診療に携わる研修予定症例数（計画年度別）			所属医療機関の年間見込み症例数
	1年目	2年目	3年目	
椎弓切除・椎弓形成（緊急手術も含む）	50 件	50 件	50 件	280 件
椎弓切除・椎弓形成（助手）	40 件	40 件	40 件	280 件
後側方固定・後方椎体間固定術（緊急手術も含む）	30 件	30 件	30 件	170 件
後側方固定・後方椎体間固定術（助手）	30 件	30 件	30 件	170 件
頚椎前方固定	5 件	5 件	5 件	30 件
頚椎前方固定（助手）	5 件	5 件	5 件	30 件
胸・腰椎前方固定	10 件	10 件	10 件	30 件
胸・腰椎前方固定（助手）	30 件	30 件	30 件	30 件
側弯症手術	1 件	3 件	3 件	50 件
側弯症手術（助手）	10 件	10 件	10 件	50 件
ミエログラフィー	80 件	80 件	80 件	480 件

（4）その他、技能修得のために必要な業務

週1回の外来業務、月2回の当直、月4回のオンコール
学会発表、学術論文(一部自己研鑽を含む)

（ウ）申請した技能分野の当該医療機関におけるC-2水準の指定について

○ 指定済　○ 指定申請中　◉ 同時申請

（エ）意思確認

☑ 当該技能研修計画は、自らの発意に基づき作成しており、作成した技能研修計画書の業務内容は申請技能の向上のために、やむを得ず960時間以上の時間外・休日労働を必要とする。

（医療機関担当者記入欄）　☐ 医療機関内の承認手続きを完了

記入例12

技能研修計画の申請書

申請日	年　　月　　日

申請番号	

（ア）申請者に関する情報

フリガナ	
氏名	

性別	
生年月日	

申請者の連絡先

電話番号	
e-mail	

医籍番号	
医籍登録年度	2016

技能の修得・維持を予定している医療機関

都道府県		医療機関名	
所属診療科（自由記載）	循環器内科		

保有専門医資格 （複数選択可）

基本19領域

- ☑ 01. 内科専門医（認定内科医）（総合内科専門医）
- ☐ 02. 小児科専門医
- ☐ 03. 皮膚科専門医
- ☐ 04. 精神科専門医
- ☐ 05. 外科専門医
- ☐ 06. 整形外科専門医
- ☐ 07. 産婦人科専門医
- ☐ 08. 眼科専門医
- ☐ 09. 耳鼻咽喉科専門医
- ☐ 10. 泌尿器科専門医
- ☐ 11. 脳神経外科専門医
- ☐ 12. 放射線科専門医
- ☐ 13. 麻酔科専門医
- ☐ 14. 病理専門医
- ☐ 15. 臨床検査専門医
- ☐ 16. 救急科専門医
- ☐ 17. 形成外科領域専門医
- ☐ 18. リハビリテーション科専門医
- ☐ 19. 総合診療専門医

その他専門医

- ☐ 消化器病専門医
- ☐ 循環器専門医
- ☐ 呼吸器専門医
- ☐ 血液専門医
- ☐ 内分泌代謝科専門医
- ☐ 糖尿病専門医
- ☐ 腎臓専門医
- ☐ 肝臓専門医
- ☐ アレルギー専門医
- ☐ 感染症専門医
- ☐ 老年病専門医
- ☐ 神経内科専門医
- ☐ リウマチ専門医
- ☐ 消化器内視鏡専門医
- ☐ がん薬物療法専門医
- ☐ 消化器外科専門医
- ☐ 呼吸器外科専門医
- ☐ 心臓血管外科専門医
- ☐ 小児外科専門医
- ☐ 乳腺専門医
- ☐ 内分泌外科専門医
- ☐ 放射線診断専門医
- ☐ 放射線治療専門医

☐ その他①	（　　）
☐ その他②	（　　）
☐ その他③	（　　）

※その他の記入欄が足りない場合は、申請に関わる専門医資格を優先して記載してください。

いずれの専門医資格も保有していない場合、特記すべき事情があれば、下記に記載をしてください。

例：ライフイベントや留学、天災等により、専門医資格を更新できていないため。

記入例12

（イ）技能研修計画　※必ず申請医師本人が記載してください

（1）研修計画期間（一度に申請できるのは最長3年）

開始	2024年4月
終了	2027年3月

（2）技能の内容

領域（基本19領域）	内科
技能名 ※臓器または病態と医療行為を組み合わせて技能名を作成（例参照）	例：肝臓に関する移植手術およびその周術期管理 心臓に関わるカテーテル処置技術およびその処置前後の管理
C-2水準の対象技能となり得る技能の考え方（いずれかを選択）	○ 医療技術の進歩により新たに登場した、保険未収載の治療・手術技術
	◉ 良質かつ安全な医療を提供し続けるために、個々の医師が独立して実施可能なレベルまで修得・維持しておく必要があるが、基本領域の専門医取得段階ではそのレベルまで到達することが困難な技術
技能の修得にやむを得ず長時間労働が必要となる根拠（複数選択可）	☑ 診療の時間帯を選択できない現場でなければ修得できない
	☑ 同一の患者を同一の医師が継続して対応しなければ修得できない
	☑ その技能に関する手術・処置等が長時間に及ぶ

（3）当該技能の修得に関する技能の研修予定症例数

申請するC-2水準の技能の修得のために必要とされる個別の技能／技術等	技能修得のために主体的に診療に携わる研修予定症例数（計画年度別）			所属医療機関の年間見込み症例数
	1年目	2年目	3年目	
冠動脈造影	120 件	120 件	120 件	500 件
経皮的冠動脈インターベンション（助手）	120 件	120 件	120 件	350 件
経皮的冠動脈インターベンション（術者）	80 件	100 件	100 件	350 件
ペースメーカー植え込み（術者）	10 件	10 件	10 件	100 件
ECMO/IMPELLA	3 件	5 件	5 件	15 件
TAVI(助手)	10 件	20 件	30 件	50 件
TAVI(術者)	0 件	0 件	3 件	50 件

（4）その他、技能修得のために必要な業務

週1-2回の外来業務、月5回の当直、病棟業務、学会発表
カテーテルレポート、経食道エコー

（ウ）申請した技能分野の当該医療機関におけるC-2水準の指定について

○ 指定済　○ 指定申請中　◉ 同時申請

（エ）意思確認

☑ 当該技能研修計画は、自らの発意に基づき作成しており、作成した技能研修計画書の業務内容は申請技能の向上のために、やむを得ず960時間以上の時間外・休日労働を必要とする。

（医療機関担当者記入欄）　☐ 医療機関内の承認手続きを完了

記入例13

技能研修計画の申請書

申請日	年　月　日

申請番号	

※申請者は記載不要

（ア）申請者に関する情報

フリガナ	
氏名	

性別	
生年月日	

申請者の連絡先

電話番号	
e-mail	

医籍番号	
医籍登録年度	2015

技能の修得・維持を予定している医療機関

都道府県		医療機関名	
所属診療科（自由記載）	消化器内科		

保有専門医資格 （複数選択可）

基本19領域

- ☑ 01. 内科専門医（認定内科医）（総合内科専門医）
- ☐ 02. 小児科専門医
- ☐ 03. 皮膚科専門医
- ☐ 04. 精神科専門医
- ☐ 05. 外科専門医
- ☐ 06. 整形外科専門医
- ☐ 07. 産婦人科専門医
- ☐ 08. 眼科専門医
- ☐ 09. 耳鼻咽喉科専門医
- ☐ 10. 泌尿器科専門医
- ☐ 11. 脳神経外科専門医
- ☐ 12. 放射線科専門医
- ☐ 13. 麻酔科専門医
- ☐ 14. 病理専門医
- ☐ 15. 臨床検査専門医
- ☐ 16. 救急科専門医
- ☐ 17. 形成外科領域専門医
- ☐ 18. リハビリテーション科専門医
- ☐ 19. 総合診療専門医

その他専門医

- ☐ 消化器病専門医
- ☐ 循環器専門医
- ☐ 呼吸器専門医
- ☐ 血液専門医
- ☐ 内分泌代謝科専門医
- ☐ 糖尿病専門医
- ☐ 腎臓専門医
- ☐ 肝臓専門医
- ☐ アレルギー専門医
- ☐ 感染症専門医
- ☐ 老年病専門医
- ☐ 神経内科専門医
- ☐ リウマチ専門医
- ☐ 消化器内視鏡専門医
- ☐ がん薬物療法専門医
- ☐ 消化器外科専門医
- ☐ 呼吸器外科専門医
- ☐ 心臓血管外科専門医
- ☐ 小児外科専門医
- ☐ 乳腺専門医
- ☐ 内分泌外科専門医
- ☐ 放射線診断専門医
- ☐ 放射線治療専門医

☐ その他①	（　　）
☐ その他②	（　　）
☐ その他③	（　　）

※その他の記入欄が足りない場合は、申請に関わる専門医資格を優先して記載してください。

いずれの専門医資格も保有していない場合、特記すべき事情があれば、下記に記載をしてください。

例：ライフイベントや留学、天災等により、専門医資格を更新できていないため。

（イ）技能研修計画　※必ず申請医師本人が記載してください

（1）研修計画期間（一度に申請できるのは最長3年）

開始	2024年10月
終了	2027年3月

（2）技能の内容

領域（基本19領域）	内科
技能名 ※臓器または病態と医療行為を組み合わせて技能名を作成（例参照）	例：肝臓に関する移植手術およびその周術期管理 胆膵疾患に関する胆膵内視鏡技術およびその処置前後の管理
C-2水準の対象技能となり得る技能の考え方（いずれかを選択）	○ 医療技術の進歩により新たに登場した、保険未収載の治療・手術技術
	◉ 良質かつ安全な医療を提供し続けるために、個々の医師が独立して実施可能なレベルまで修得・維持しておく必要があるが、基本領域の専門医取得段階ではそのレベルまで到達することが困難な技術
技能の修得にやむを得ず長時間労働が必要となる根拠（複数選択可）	☑ 診療の時間帯を選択できない現場でなければ修得できない
	☑ 同一の患者を同一の医師が継続して対応しなければ修得できない
	☐ その技能に関する手術・処置等が長時間に及ぶ

（3）当該技能の修得に関する技能の研修予定症例数

申請するC-2水準の技能の修得のために必要とされる個別の技能／技術等	技能修得のために主体的に診療に携わる研修予定症例数（計画年度別）			所属医療機関の年間見込み症例数
	1年目	2年目	3年目	
胆道ERCP（術者）	150 件	200 件	200 件	900 件
膵管ERCP（術者）	50 件	80 件	80 件	300 件
胆道ERCP（助手）	300 件	300 件	300 件	900 件
膵管ERCP（助手）	150 件	150 件	150 件	300 件
超音波内視鏡検査(EUS)	150 件	150 件	150 件	600 件
EUS-FNA	50 件	60 件	70 件	280 件
Interventional EUS（術者）	10 件	20 件	30 件	150 件
Interventional EUS（助手）	50 件	50 件	50 件	150 件
胆膵内視鏡検査後の患者管理	300 件	300 件	300 件	2230 件
経皮的胆道処置	20 件	30 件	40 件	100 件

（4）その他、技能修得のために必要な業務

週1回の外来業務・月4回の当直業務・月6回のオンコール
臨床研修医への指導・学会・研究会発表　月1回・学術論文 年5-10本(これらは自己研鑽)
一般医学雑誌への記事記載（年2回）
チームカンファレンス（週2回）・内科外科合同カンファレンス（週1回）

（ウ）申請した技能分野の当該医療機関におけるC-2水準の指定について

○ 指定済　○ 指定申請中　◉ 同時申請

（エ）意思確認

☑ 当該技能研修計画は、自らの発意に基づき作成しており、作成した技能研修計画書の業務内容は申請技能の向上のために、やむを得ず960時間以上の時間外・休日労働を必要とする。

（医療機関担当者記入欄）　☐ 医療機関内の承認手続きを完了

記入例14

技能研修計画の申請書

申請日	年　　月　　日

申請番号	

※申請者は記載不要

（ア）申請者に関する情報

フリガナ	
氏名	

性別	
生年月日	

申請者の連絡先

電話番号	
e-mail	

医籍番号	
医籍登録年度	2006

技能の修得・維持を予定している医療機関

都道府県		医療機関名	
所属診療科（自由記載）	臓器移植センター		

保有専門医資格 （複数選択可）

基本19領域

- ☐ 01. 内科専門医（認定内科医）（総合内科専門医）
- ☐ 02. 小児科専門医
- ☐ 03. 皮膚科専門医
- ☐ 04. 精神科専門医
- ☑ 05. 外科専門医
- ☐ 06. 整形外科専門医
- ☐ 07. 産婦人科専門医
- ☐ 08. 眼科専門医
- ☐ 09. 耳鼻咽喉科専門医
- ☐ 10. 泌尿器科専門医
- ☐ 11. 脳神経外科専門医
- ☐ 12. 放射線科専門医
- ☐ 13. 麻酔科専門医
- ☐ 14. 病理専門医
- ☐ 15. 臨床検査専門医
- ☐ 16. 救急科専門医
- ☐ 17. 形成外科領域専門医
- ☐ 18. リハビリテーション科専門医
- ☐ 19. 総合診療専門医

その他専門医

- ☐ 消化器病専門医
- ☐ 循環器専門医
- ☐ 呼吸器専門医
- ☐ 血液専門医
- ☐ 内分泌代謝科専門医
- ☐ 糖尿病専門医
- ☐ 腎臓専門医
- ☐ 肝臓専門医
- ☐ アレルギー専門医
- ☐ 感染症専門医
- ☐ 老年病専門医
- ☐ 神経内科専門医
- ☐ リウマチ専門医
- ☐ 消化器内視鏡専門医
- ☐ がん薬物療法専門医
- ☐ 消化器外科専門医
- ☐ 呼吸器外科専門医
- ☐ 心臓血管外科専門医
- ☐ 小児外科専門医
- ☐ 乳腺専門医
- ☐ 内分泌外科専門医
- ☐ 放射線診断専門医
- ☐ 放射線治療専門医

☐ その他①	（　　）
☐ その他②	（　　）
☐ その他③	（　　）

※その他の記入欄が足りない場合は、申請に関わる専門医資格を優先して記載してください。

いずれの専門医資格も保有していない場合、特記すべき事情があれば、下記に記載をしてください。

例：ライフイベントや留学、天災等により、専門医資格を更新できていないため。

（イ）技能研修計画　※必ず申請医師本人が記載してください

（1）研修計画期間（一度に申請できるのは最長3年）

開始	2024年4月
終了	2027年3月

（2）技能の内容

領域（基本19領域）	外科
技能名 ※臓器または病態と医療行為を組み合わせて技能名を作成（例参照）	例：肝臓に関する移植手術およびその周術期管理 小児肝臓に関わる移植手術技術およびその周術期管理
C-2水準の対象技能となり得る技能の考え方（いずれかを選択）	○ 医療技術の進歩により新たに登場した、保険未収載の治療・手術技術
	◉ 良質かつ安全な医療を提供し続けるために、個々の医師が独立して実施可能なレベルまで修得・維持しておく必要があるが、基本領域の専門医取得段階ではそのレベルまで到達することが困難な技術
技能の修得にやむを得ず長時間労働が必要となる根拠（複数選択可）	☑ 診療の時間帯を選択できない現場でなければ修得できない
	☑ 同一の患者を同一の医師が継続して対応しなければ修得できない
	☑ その技能に関する手術・処置等が長時間に及ぶ

（3）当該技能の修得に関する技能の研修予定症例数

申請するC-2水準の技能の修得のために必要とされる個別の技能／技術等	技能修得のために主体的に診療に携わる研修予定症例数（計画年度別）			所属医療機関の年間見込み症例数
	1年目	2年目	3年目	
ドナー肝切除（第一，二，三助手）	10 件	15 件	20 件	60 件
移植後のICU管理	20 件	30 件	40 件	120 件
術前説明の陪席，主体となって説明	10 件	15 件	20 件	60 件
レシピエント手術（第一，二，三助手）	10 件	15 件	20 件	60 件
肝生検手技	20 件	30 件	45 件	150 件
免疫抑制剤の調整	50 件	60 件	60 件	300 件

（4）その他、技能修得のために必要な業務

手術レコード作成，ビデオ編集
移植適応評価委員会資料作成，患者病状説明
臨床研修医，コメディカルに対するレクチャー，カンファレンス参加および準備
外来診療，オンコール（月10回）

（ウ）申請した技能分野の当該医療機関におけるC-2水準の指定について

○ 指定済　○ 指定申請中　◉ 同時申請

（エ）意思確認

☑ 当該技能研修計画は、自らの発意に基づき作成しており、作成した技能研修計画書の業務内容は申請技能の向上のために、やむを得ず960時間以上の時間外・休日労働を必要とする。

（医療機関担当者記入欄）　☐ 医療機関内の承認手続きを完了